

第6章 関連文化財群と文化財保存活用区域

第1節 関連文化財群の設定と保存・活用の措置

(1) 関連文化財群の考え方

関連文化財群とは、「地域の宝物」を「地域の多種多様な文化財を歴史文化の特徴に基づくテーマやストーリーに沿って一定のまとまりとして捉えたもの」である。まとまりをもって扱うことで、単独では活用を図りにくい「地域の宝物」の価値付けが可能となり、個々の「地域の宝物」だけでは捉えにくい魅力や、文化財の多面的な価値を発見すること、より広く深く地域の理解に繋がることが期待される。

(2) 小豆島町の関連文化財群

本町においては、第2章において、本町の歴史、自然、産業、景観等の特徴についてまとめ、第3章において「A 大地と生きるまち ～火山と瀬戸内海の景観と恵み～」 「B 交流するまち ～東西交流の海の中継地～」 「C 聖なるまち ～多様な信仰と祭礼～」の3つの視点で整理を行った。これを踏まえて、本章では、3つの視点から導き出された下記のテーマにより関連文化財群を設定する。

各関連文化財内の小見出しの右段には、第3章の「歴史文化の特徴」との関連性を示している。

関連文化財群1 ジオサイトの聖地と恵み		関連する歴史文化の特徴		
① 小豆島の誕生	A			
② 地形地質から生まれた恵みと景観	A	B		

関連文化財群2 海の道 ～瀬戸内を行き交う人・物・情報～		関連する歴史文化の特徴		
① 交流の萌芽と塩	A	B		
② 佐々木信胤の足跡と悲恋の物語		B		C
③ 海運と海を行く技術		B		
④ 交流による産業と文化		B		C

関連文化財群3 近現代小豆島の大躍進		関連する歴史文化の特徴		
① 基幹産業の発展と景観の形成	A	B		
② 島の魅力の再発見と発信		B		C
③ 文学作品の島				C

関連文化財群4 暮らしの祈りと多様な祭礼		関連する歴史文化の特徴		
① 山岳霊場と遍路	A	B		C
② 水や火の信仰	A			C
③ 豊作の感謝 ～農村歌舞伎と太鼓台奉納～		B		C
④ 人々への祈りと伝説				C
⑤ 失われた祈り		B		C

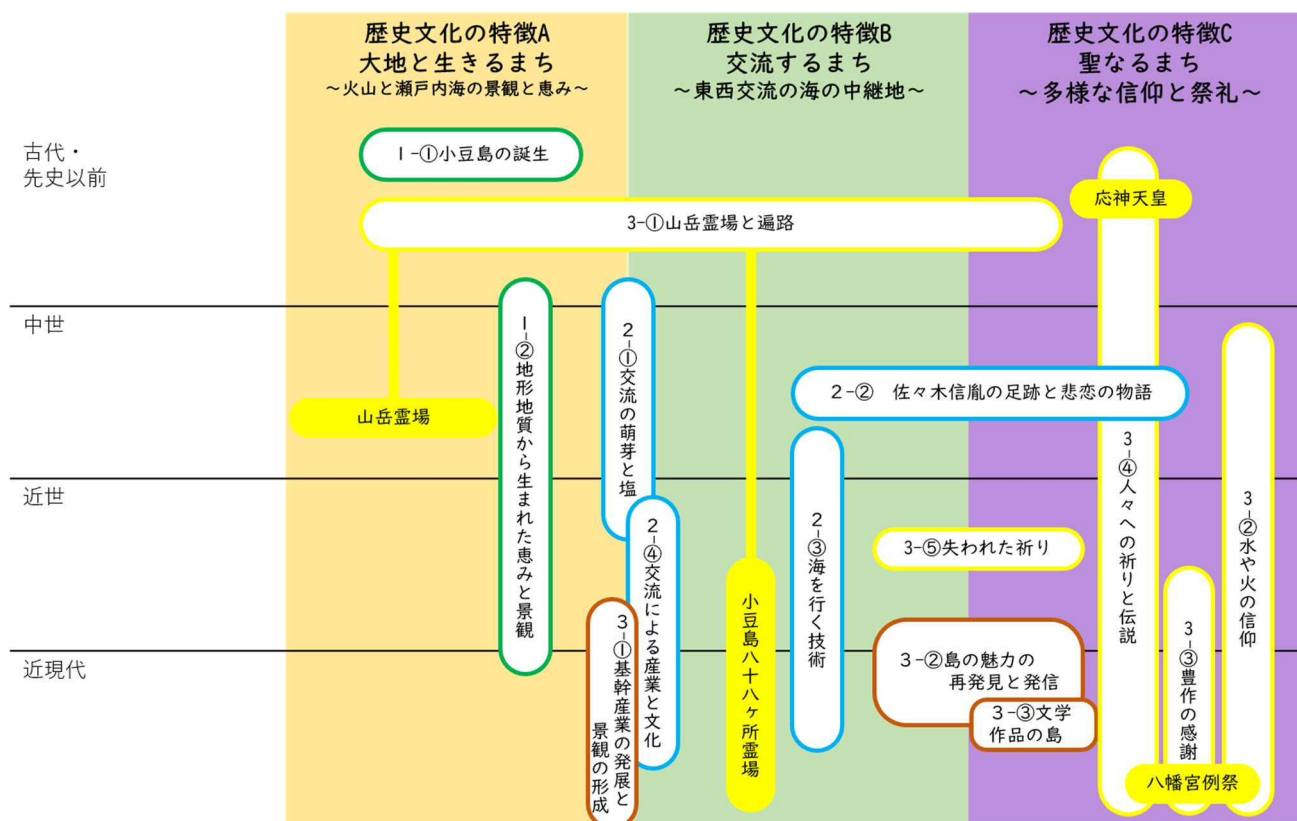


図 6-1 関連文化財群と歴史文化の特徴の相関図

瀬戸内海は、幕末頃のドイツの地理学者 リヒトホーフェンにより、「広い区域に亙る優美な景色で、これ以上のものは世界の何処にもないであらう。」と称された。小豆島は、瀬戸内海を中心にあって、穏やかな海と太陽のある海浜の景観や、急峻な山岳地帯の険しい崖地・奇岩奇石の景観、中山間地域の棚田の農村景観、醤油等の産業景観等、さまざまな景観や地形が堪能できる風光明媚な場所である。このような特徴が生まれた背景には、小豆島の地質の成り立ちが大いに関わっている。

①小豆島の誕生

小豆島は、約 8,000 万年前から 9,000 万年前にできた花崗岩類の上に、1,300 万年前から 1,500 万年前に起こった瀬戸内海の火山噴火によって噴出した瀬戸内火山岩類が厚く堆積してできた島である。堆積物は、1,000 万年にわたって風雨の侵食を受け、名勝神懸山（寒霞溪）等の奇岩奇石の特徴的な景勝地が生まれ、断崖を利用した小豆島霊場なども生まれた。

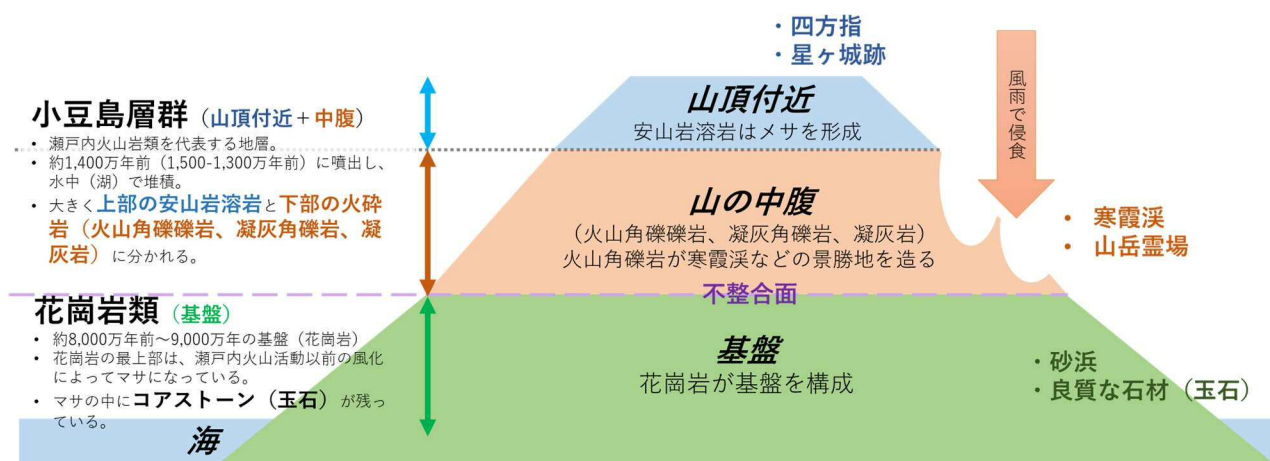


図 6-2 小豆島の地層イメージ（三層構造）

島内各所では、大地の成立に至る特徴的な地質が確認できる。坂手地区（瀬戸の浜）では、火山活動の最初に「流紋岩質マグマ」が爆発して堆積した内海類層（凝灰角礫岩）が確認でき、また四方指展望台付近では、火山の噴出物が大量に蓄積して形成された最上部の寒霞溪類層（安山岩）が確認できる。

また、神浦地区の皇子神社では、沈み込んだフィリピン海プレートが溶融してできたマグマが貫入した様子を観察することができ、地下深くのマントルと直接つながった岩石（サヌキトイド）が見られる。大地のできた仕組みが解明される可能性を持つマグマ研究の聖地として、注目されている。

その他に、離れ小島で、さまざまな海食洞が見られる花寿波島（蒲野地区）では、花崗岩に貫入した玄武岩が見られ、こちらもプレートが溶けてできたことが明らかになっており、貴重なジオサイトである。



図 6-3 皇子神社のマントル直結安山岩

②地形地質から生まれた景観と恵み

小豆島では、標高 600m から 800m の台地の地形から、一気に海に至る地形となる。このような地形では、がけ地が形成され、また豪雨等で風化した花崗岩が崩壊するなどして土石流が発生しやすく、昭和 49 年（1974）と 51 年（1976）には豪雨による大規模災害も発生した。島内には、がけ崩れの跡地の特徴的な土地利用も見られる。

険しい地形や洞窟は、修験者の行場とされた。多くは弘法大師空海が生国である讃岐と京との往復の際に修行した伝承があり、現在では山岳霊場として、地域やお遍路さんの信仰を集めている。山岳霊場からは、瀬戸内海がよく見える場所が多く、景勝地としても人気がある。また、がけ地の洞穴を住まいとして活用していた遺跡（ほら貝岩洞穴遺跡・町史跡）や、病人養生のための岩風呂として用いていた洞穴（佛谷山）もあり、さまざまな活用が見られる。

地すべり跡地は、棚田やオリーブ畑としての利用も見られる。棚田では、中山地区の千枚田が著名である。中山地区では、南北朝期頃から棚田が形成されたとされ、現在においても耕作が続けられている。この付近は、寒霞渓類層（安山岩）があり、棚田の石垣に活用されているほか、安山岩の岩塊の周辺の崩積土は、保水性がよく、水田に適している。

西村地区のオリーブ畑は、花崗岩の風化し流れた真砂土が堆積した土地に形成されており、温暖な気候と水はけのよい土壌が適合し、オリーブの一大生産地となっている。

瀬戸内海の代表的な景観である「白砂青松」の海浜は、花崗岩類が風化してできた真砂土が堆積した砂州に形成された。砂州には松が植生し、美しい海と白い砂浜、青い松の景観が生まれた。小豆島でも多くの場所で見られ、海水浴場としても活用されている。

砂州では、古代から近世にかけて塩づくりも盛んに行われた。小豆島の塩は中世から近世にかけて「島塩」として大坂・京都で珍重された、近世以降は醤油や素麺等の生産に欠かせない原材料として活用され、小豆島の近代以降の発展の基礎となった。

また、花崗岩類に含まれる良質な花崗岩のコアストーンは、江戸時代初期の大坂城石垣用材として切り出されたほか、明治後期から昭和にかけて全国の建築物や土木工作物、石造物等で使用されるなど石材として重宝された。



図 6-4 山岳霊場 西の滝



図 6-5 オリーブ畑と内海湾の風景

①小豆島の誕生

②地形地質から生まれた景観と恵み

山岳霊場（洞雲山、碁石山、隼山、清瀧山、石門洞、佛ヶ滝、仏谷山、西の滝、湯船山）【未指定有形】
 ほら貝岩洞穴遺跡【町史跡】、中山千枚田【未指定文景】、オリーブと内海湾の風景【未指定文景】、
 森口屋絵画【未指定有形（絵画）】、大坂城石垣石丁跡 小豆島丁場跡【国史跡】、
 大坂城用残石（福田・石場）【町史跡】、森ヶ滝丁場【未指定遺跡】、災害碑【未指定有形（歴史資料）】

図 6-6 関連文化財Ⅰの分布図

【関連文化財群Ⅰに関する現状と課題】

- ・ 保存面については、既に指定されている文化財が多く、地形・地質も讃岐ジオサイト構想等の関係団体等の活動により価値づけが進められているものが多いが、行場としての山岳霊場など、実態が不明瞭なものもあるため調査が必要である。また、名勝神懸山（寒霞渓）などの古い指定物件は、保存整備の方針や本質的価値の再検討が必要である。
- ・ 活用面については、日本遺産等の取組により、地域振興や商工、観光における活用が進められている。讃岐ジオパーク構想の推進による、更なる活用や来客が見込まれるため、見学にあたって危険なジオサイトの見学方法などについて検討する必要がある。

【関連文化財群Ⅰに関する方針】

- ・ 保存面については、文化財調査による本質的価値の再検討や、計画策定による保存整備の方針を検討する。
- ・ 活用面については、地域振興や商工、観光における活用の枠を広げ、関連文化財の保存・活用が計画的に運用できる体制づくりを促進するとともに、ジオパーク構想や日本遺産等と連携して、構成する関連文化財群の持つ魅力を地域内外問わず広く発信する。

【関連文化財群Ⅰに関する措置】

番号	関連文化財の措置 (措置表の番号)	事業概要	計画期間			取組主体			
			前	中	後	行政	住民	所有者	専門家
1-1	「地域の宝物」調査の促進 (2)	山岳霊場やジオサイト等の文化財調査を行い、新たな価値づけを行う。	●	●	●	◎ 商・生	○	○	◎
1-2	個別文化財の計画策定の検討 (7)	名勝神懸山（寒霞渓）等を計画的に保存・活用するため、計画策定を検討する。		●	●	◎ 生		○	○
1-3	ジオパーク構想の促進 (1, 3, 19)	ジオパーク構想を促進し、理解促進と保存を推進する。	●	●	●	◎ 企・生	○		○
1-4	日本遺産推進事業 (15, 21, 27)	日本遺産を活用して、その構成する「地域の宝物」の保存・活用を促進する。	●	●	●	◎ 商・生	○		○
1-5	見学のための環境整備 (19)	見学にあたって危険なジオサイトの見学方法などについて検討する	●	●	●	◎ 商・生			

※ () 内の数字は、第5章に掲げた措置のうち、関連する措置の番号を示したものである。

小豆島は、瀬戸内海の海上交通により発展した島である。古来島には多くの人や物が行き交い、時代の流れに翻弄されながらも、たくさんの情報に触れることで、様々な産業・文化が根付き、現在の小豆島が形成された。島にはこの交流の歴史を物語る「地域の宝物」が残されている。

①交流の萌芽と塩

小豆島には、旧石器時代頃から人が住み、弥生時代頃には他地域との交流が行われていたとされ、平形銅剣と袈裟襷文銅鐸(国重美、極ヶ谷牛飼場遺跡出土(町史跡、安田地区))等の交流の窺える考古資料が出土している。古墳時代の遺跡には、ヤマト王権との関係を示す仿製の四獣鏡(町有形、亀尾山古墳(苗羽地区))が出土し、島の豪族と近畿圏の中央政権との交流の萌芽が垣間見える。

記紀に目を移すと、小豆島は国生み神話と応神天皇の行幸地として登場する。応神天皇の行幸は、『日本書紀』(応神天皇2年9月6日条)に淡路島に狩りに出て、次いで吉備国へ行ったのち小豆島へ遊び給ったと描かれている。吉備国への行幸を経て小豆島へ来遊していることから、当時には吉備氏(吉備国造)の勢力下にあり、大和政権下に置かれていることが示されている。応神天皇の行幸に関する伝説と伝承地は島内各所に残り、中世以降島内の八幡神社の縁起として成立していく。

このように古い時代から中央政権との関係性を持っていた理由として、「塩」がキーワードとなるとされる。製塩は、花崗岩が風化してできた砂州を利用し弥生時代頃から行われていたとされ、奈良時代には調として納められていた特産品である。中世にかけて権門勢家に塩を納める荘園として受け継がれ、江戸時代に衰退するまで「島塩」として珍重されてきた。塩は、島を発展させた要因の一つであり、それによって多くの交流が生まれた。



図 6-7 小豆島名所図会(塩浜図)

②佐々木信胤の足跡と悲恋の物語

佐々木信胤は、南北朝の内乱にあたって、北朝から鞍替えして南朝方として延元4年/暦応2年(1339)3月から正平2年/貞和3年(1347)頃まで小豆島一円を支配したとされる武将で、小豆島最高峰の星ヶ城山に城を築き、島一円を要塞化したとされる。信胤は、南朝へと鞍替えするきっかけとなったお妻の局を巡る高師秋との争いに伴い、お妻の局と小豆島に入ったとされ、後に戦乱で敗れて共に亡くなった悲恋の物語として伝承されている。



図 6-8 農村歌舞伎「小豆嶋」の信胤とお妻の局

信胤の小豆島統治は、10 年にも満たない短い期間であったが、島内の各所に要塞跡や活動の伝承・遺跡が残るほか、「城崩れ」と呼ばれる当時の敗残兵（又は信胤本人や親族）を祀った石造物が多数残されている。また後世には、信胤やお妻の局等の関係者を供養するための社の造営や、悲恋の物語は、当時居を構えていたとされる安田地区に伝承される安田おどり（県無民）の歌詞や小豆島農村歌舞伎（県無民）の演目としても採用される等、島民の心情に信胤の残した影響は大きい。

信胤が本拠地を離れて小豆島を拠点とした理由として、小豆島の立地が軍事的に有利となる点が挙げられる。拠点として山城を築いた星ヶ城山は、小豆島と淡路国、播磨国、讃岐国に接する播磨灘を見渡せる立地にあり、水軍を用いて京都と西国を繋ぐ瀬戸内海東部の海上権を握り、北朝軍の連絡路を断つことに成功したという。

③海を行く技術

古来、小豆島においても海賊（水軍）が存在したとされ、中世には、熊野水軍の影響下にあったとされる。佐々木信胤敗走後の細川管領家領下では、小豆島の兵船が戦乱や遣明船として徴用された。戦国時代には村上水軍の傘下にあったとされ、その後織田政権、豊臣政権等、時の権力者に付き従ってきた。

江戸時代に入ると、天領になるとともに、有事などにあたって、幕府の求めに応じて水夫と船を供出する義務を負う代わりに、税が減免される加子浦に指定された。島原の乱（寛永 14 年（1637））以降天下平穏



図 6-9 内海湾

となり、軍船が不要となることで、元禄 2 年（1689）に加子浦指定を解除されるが、この加子浦指定の背景には優れた操船、造船技術があったためとされている。また江戸時代初期の大坂城石垣のための採石では、小豆島の船が巨大な石を積載する活躍をする等、高度な操船技術を持っていた。

江戸時代を通して、奥州や九州などの年貢米の回漕や西廻海運、九州方面等、多方面に船を走らせた。これらの船は坂手港、下村港（草壁港）、土庄港に集まり、市が開かれて賑わった。商人の活動がわかる物として、元禄期（1688-1704）に地元豪商の塩屋金八が長崎方面から持ち帰ったとされる誓願寺のソテツや、石階段の寄付者等に西宮と盛んな交流が垣間見える橘荒神神社等のさまざまな寺社への廻船の奉納のほか、海難事故に関する豊富な文書が残される等、広い交流が垣間見える。

④交流による産業と文化

上記の廻船の交流は、小豆島にさまざまな産業と文化が生まれた。現在においても、主要な産業や文化である素麺や醤油、採石、小豆島農村歌舞伎、小豆島八十八か所霊場は、この時代に根付いたものである。

素麺や醤油の産業では、在来の塩と、外から入ってくる材料を組み合わせで製品化し、それを大坂方面で売るといった形で成立した。素麺は、三輪（大和国）で製法を学んだ島民が伝承したとされ、古くから作られていた塩と、九州から運んだ小麦を原料として生産された。また醤油も、大坂・京都の大都市圏から学んだと伝承され、島の塩と九州方面の小麦や大豆を原料として産業化した。これらの製品は、船で一大消費地の大阪へ運ばれ、好評を博した。

花崗岩の採石は、大坂城石垣の採石により始まったとされる。大坂城の採石後に産業化し、小豆島の主要な産品の一つとなった。まさに交流が生んだ産業である。

文化は、交流によって先進文化に触れ、島に取り入れる形で発展した。代表例である農村歌舞伎は、17世紀後半に上方で歌舞伎が始まって間もない頃に、金毘羅への途上の旅役者が歌舞伎を伝えたとされ、元禄期頃（1688-1704）には地芝居が始まっていた兵庫・播磨の影響を受け、18世紀初期頃から小豆島の農村歌舞伎が始まったと推測される。明治時代に入ると、伊勢参りに行った島民が土産として衣裳やかつら等を持ち帰り、神社に奉納した。

小豆島八十八ヶ所霊場は、江戸時代中期頃に成立したとされる巡礼文化である。成立の経緯は未詳だが、島外の者が「遍路」として訪れ、島内の者が「接待」とするという構図は、江戸時代から引き継がれている。この文化も、島外との交流によって産まれた文化である。

一方で、歴史的な経緯から過ぎ去った文化もある。織豊期に小西行長によって伝搬されたキリスト教である。宣教師の活動によって多数のキリスト教信者が生まれたが、伴天連追放令以降江戸時代にかけて、キリシタンへの弾圧が行われた。町内では、18世紀頃まで潜伏キリシタンが信仰を続けていたとされ、キリシタンの文化が忘れ去られた後においても、その活動の名残とされる墓石等が伝えられている。



図 6-10 中山春日神社の奉納絵馬

【構成する「地域の宝物」】

①交流の萌芽

- （交流遺構） 極ヶ谷牛飼場遺跡【町史跡】、平形銅剣と袈裟襷文銅鐸【国重美】
亀尾山古墳【包蔵地】、四獣鏡【町有形（考古資料）】、弁天島古墳群【町史跡】
- （応神天皇） 亀山八幡宮【未指定有形（建造物）】、内海八幡神社【未指定有形（建造物）】、
葺田八幡神社【未指定有形（建造物）】、腰掛石【未指定遺跡】
草加部郷八幡宮社伝紀並五社紀【未指定有形（歴史資料）】
- （製塩遺跡） 蒲生遺跡【包蔵地】、浜条遺跡【包蔵地】、赤松家文書【町有形（古文書）】、
菅家文書【町有形（古文書）】

②佐々木信胤の足跡と悲恋の物語

- 星ヶ城跡【県史跡】、安田城跡【包蔵地】、天王山城跡【包蔵地】、城ヶ島城跡【包蔵地】ほか
城崩伝承石造物（各所）【未指定有民】、佐々木信胤廟【未指定有形（建造物）】、
竹成神社【未指定有形（建造物）】、お妻の局社【未指定有形（建造物）】
安田おどり【県無民】、小豆島農村歌舞伎【県無民】

③海を行く技術

- 明王寺釈迦堂（文字瓦）【国重文（建造物）】、壺井家文書（矢文、海難資料）【町有形（古文書）】
船図船大工道具【町有民】、当世具足【町有形（工芸品）】、誓願寺のソテツ【国天記】、
内海八幡神社【未指定有形（建造物）】、橘荒神社社叢【町天記】

④交流による産業と文化

小豆島素麺の製造技術【未指定有民】、讃岐の醤油醸造技術【国登録無民】

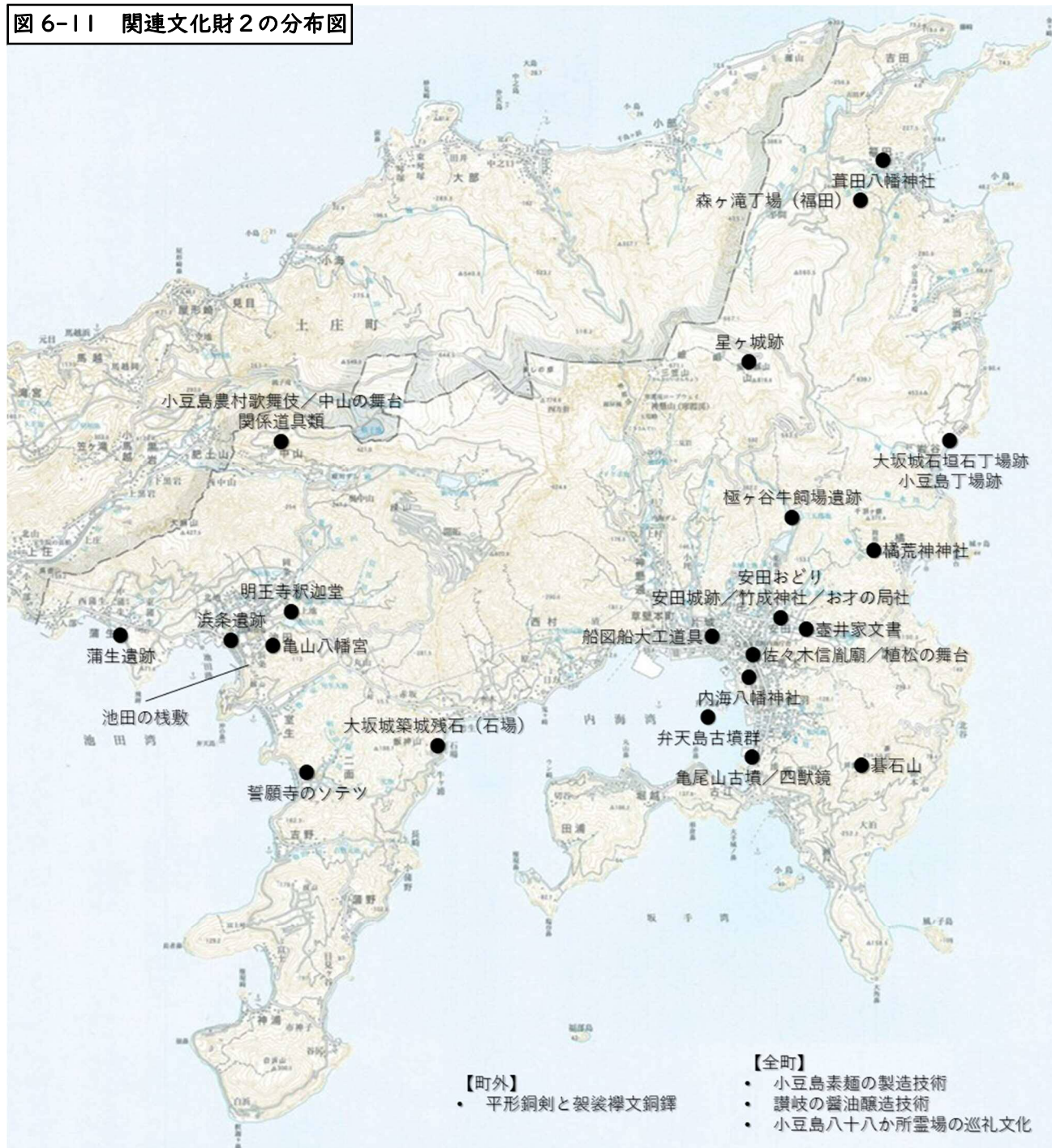
大坂城石垣石丁場跡 小豆島丁場跡【国史跡】、森ヶ滝丁場【未指定遺跡】、水の子岩遺跡【包蔵地】ほか

小豆島農村歌舞伎【県無民】、関係道具、衣裳、根本類【町有民】ほか

池田の棧敷【国重有民】中山の舞台【国重有民】、植松の舞台【未指定有民】、

小豆島八十八か所霊場の巡礼文化【未指定無民】

図 6-11 関連文化財 2 の分布図



【関連文化財群 2 に関する現状と課題】

- ・ 保存面については、保護が図られている文化財や地域が守り継いでいる神社や伝承が多いが、神社や石造物の調査の進んでいる旧内海町域が多く把握できている一方で、旧池田町域分については十分に把握しきれていない。また、現在伝承されている醤油等の伝統産業や遍路の巡礼文化について、歴史的な価値づけにより魅力の向上を図っていく必要があるが、歴史的経緯や伝統技術等の整理ができていない。
- ・ 無形民俗文化財については、後継者不足により技術継承が危ういものもあるため、後継者育成事業を行う必要がある。
- ・ 活用面については、伝統産業である醤油、素麺、佃煮、オリーブ等の魅力発信や販売促進のため、文化財的な視点で付加価値を付して、産業の振興を図る必要がある。

【関連文化財群 2 に関する方針】

- ・ 保存面については、伝統産業や伝統文化等の魅力向上のために、石造物や寺社・祠等の基礎的な文化財調査による価値づけを行う。
- ・ 小豆島農村歌舞伎（県無民）や安田おどり（県無民）等の民俗芸能の後継者育成のため、理解促進による魅力発信、人材や技術（楽器演奏、太夫等）の継承を支援する。
- ・ 活用面については、伝統産業である醤油、素麺、佃煮、オリーブ等の魅力発信や販売促進のため、生産技術、施設、景観、歴史文化等の文化財的な視点による価値を付与する。

【関連文化財群 2 に関する措置】

番号	関連文化財の措置 (措置表の番号)	事業概要	計画期間			取組主体			
			前	中	後	行政	住民	所有者	専門家
2-1	「地域の宝物」調査の促進 (2)	伝統産業、石造物、石丁場、寺社等を把握するため、文化財調査を行い、新たな価値づけを行う。	●	●	●	◎ 生	○		○
2-2	地場産品の魅力向上 (24)	「地域の宝物」を生かし、地場産品の魅力向上を図る。	●	●	●	◎ 商・生	○	○	
2-3	無形民俗文化財の普及啓発、後継者育成 (30)	地域の魅力ある無形民俗文化財の理解促進と後継者育成を促進する。	●	●	●	◎ 生		◎	◎

※ () 内の数字は、第 5 章に掲げた措置のうち、関連する措置の番号を示したものである。

小豆島では、近世後期から近現代にかけて醤油や素麺、オリーブ等の食品や観光等の産業が大いに発展した。その背景として、水田として耕作可能な土地が少なかったことから、江戸中期以降、製塩や廻船、江戸後期には素麺業、醤油醸造業が成長し、早い時期からの貨幣経済の発達があり、農村社会に裕福な在郷商人層が台頭したことがあり、近現代の発展の基礎が形成された。

その基礎には、島の地勢や地質・地形の恵みがあり、島民はそれを大いに活用するため、積極的に新しい物を取り入れることに努めた。その気質は「進取の気質」と呼ばれる。町内には、それを物語る「地域の宝物」が残されている。

①基幹産業の発展と景観の形成

現在の小豆島を特徴づける基幹産業は、醤油醸造（佃煮）、素麺、採石業、農業（オリーブ等）等があり、それぞれ近現代を通じて発展し、島の文化や生活と馴染んで独特の文化的景観を形成している。

小豆島の醤油は、江戸時代以来の歴史を持ち、近代以降は、丸金醤油等の大規模な醸造を行う企業が登場して大いに発展し、日本の四大醤油産地の一つに数えられる。現在においても、多くの企業によって木桶を使った伝統的な醤油醸造が行われているほか、現役の醤油蔵や佃煮工場等、近代の繁栄を偲ばせる財を成した邸宅や寺社等で構成される伝統的かつ特徴的な町並みが形成されており、小豆島の伝統的な醤油醸造を五感で体験することができる。



図 6-12 伝統的な醤油醸造

小豆島の素麺は、醤油と同様に江戸時代以来の歴史をもつ産品で、三輪（大和国）から技術が伝承され、農閑期の副業として発達し、明治初期に最盛期を迎えた。現在においても多数の生産者がおり、島のあちらこちらで乾燥中の素麺が見られ、山や川、海を背景として、風にたなびく素麺のある景観が小豆島を特徴づける。また、殿川水系には、原料の小麦粉をひくために素麺問屋らによって設置された水車遺構や彼らによって信仰された水天宮があり、中山間地域の景観を構成する要素の一つとなっている。

花崗岩を主とした採石業は、島内でも特に急斜面地形である小豆島東海岸及び北海岸沿いで発達した。江戸初期の大坂城石垣石の丁場に始まり、明治以降、近畿地方のさまざまな建築物や土木工作物等に活用され、日本の近代化を支えた。現在においても土木用砕石や加工石造物として活用されている。島の東海岸には、江戸大坂城の時代から、明治時代の繁栄時代、現代の石丁場にいたるまで、時代ごとの石丁場の景観が形成されるとともに、石工たちの巨石信仰や祭礼などの独特な文化が継承されている。また、町内には身近な生活の中に石があり、石碑石仏などの石造物、石積みで構成される棚田や段畑、しし垣、中山の舞台（国重有民）や池田の棧敷等の祭礼の棧敷席（国重有民）等の特色的な景観や、花崗岩総覆工の高坂隧道等の特徴的な工作物も伝承されている。

日露戦争（明治 37 年-38 年（1904-05））を契機としたオリーブ栽培は、小豆島の代表的な産業である。良質なオリーブ製品とともに、オリーブ畑と瀬戸内海の穏やかな海との景観が高く評価されており、昭和期には、斜面のオリーブ畑と陽光、内海湾が織りなす風景が、地中海のようであるとされ、若き日の猪熊弦一郎等の多くの若手画家が来島し、近隣の森口屋旅館に逗留し、多くの絵画を残している。



図 6-13 猪熊源一郎「太陽とオリーブ」

②島の魅力の再発見と発信

小豆島の観光地の基礎として、江戸後期以降近代にかけて、小豆島では小豆島霊場や寒霞溪を中心として、郷土の魅力を見直し発信する取組がある。古くは、暁鐘成（文）と松川半山（絵）の『小豆島名所図会』（嘉永期成立）の作成がある。『名所図会』では、小豆島の霊場を中心としながら、島の名所、歴史、景観、風土、産業などを由緒とともに紹介している。

近代以降、島民が中心となって島の魅力の普及啓発が行われる。特に寒霞溪は、江戸後期頃から文人らが探勝に訪れるようになり、明治以降は地元の文人や政治家らによって絵画や詩歌が作られた。明治 31 年（1898）の神懸山保勝会の設立後は、文人のみならず、新聞記者や画家、旅行団体等を幅広く招へいし、寒霞溪や小豆島の魅力を広く宣伝した。この動きは、昭和 9 年（1934）の備讃瀬戸の国立公園指定へとつながっていくこととなる。昭和期以降も『神懸山志』等の刊行や「小豆島小唄」の作曲、下村港（現在の草壁港）への遊覧船の誘致、名勝への登山道・自動車用道路等の整備など、寒霞溪を中心とした観光開発を促進した。名勝内には、これらの歴史を示す石碑群が置かれ、景観を特色づける。

また、小豆郡役所では、景勝地保全と霊場の普及啓発、産業振興に努めるとともに、郡長を務めた森遷らが中心となって修史事業が行われた。中でも、島の地誌、風土、歴史などを取りまとめた『小豆郡誌』（大正 6 年（1917））が刊行され、小豆島の地誌の基礎となった。また『小豆郡誌』編集の基礎資料となった各村の『村誌調書』は、当時を物語る貴重な資料である。この動きは、昭和以降、各町史の編纂とともに、旧村単位での「村史」刊行へと引き継がれていく。

③文学作品の島

戦後の小豆島を一躍有名にしたのが文学作品である。小豆島は、壺井栄や栄の夫でありプロレタリア詩人である壺井繁治、作者のシベリア出兵の体験をもとに描いた小説『渦巻ける鳥の群れ』の黒島傳治など、多くの文学者を輩出した。中でも、最も島に影響を与えたのが、壺井栄の『二十四の瞳』である。

栄の作品では、主に映像化されたものを中心として、小豆島を舞台又はロケ地としたものが多い。『二十四の瞳』では、美しい瀬戸内海の風景や桜の名所である城山（池田）、岬の分教場（田浦）、池田の栈敷（池田）や亀山八幡宮（池田）等をロケ地とし、全国に小豆島の魅力が知らしめられ、現代の発展の基礎となった。

【構成する「地域の宝物」】

①基幹産業の発展と景観の形成

醤油（佃煮）業

木桶を用いた伝統的な醤油醸造技術【讃岐の醤油醸造技術（国登録無民）】、
醤油の郷の産業遺産、邸宅、寺社、道路、水路、港等の景観

【国登録有形、未指定有形（建造物）、未選定伝建、未選定文景ほか】、

マルキン記念館【国登録有形（建造物）】、マルキン記念館収蔵資料【未指定有民】、

真光寺【樹木：町天記】、橋本屋「萬覚」「醤油帳」【町有形（古文書）】、醤油関係民具【未指定有民】

素麺業

小豆島素麺の製造技術【未指定無民】、岡井家文書（明神講）【未指定有形（古文書）】、

殿川と水車遺構【未指定有民】、水天宮（中山）【未指定有民】、

オйнаワソウメンの習俗【未指定無民】

採石業

大坂城石垣石丁跡 小豆島丁場跡【国史跡】、大坂城用残石（福田・石場）【町史跡】、

森ヶ滝丁場【未指定遺跡】、池田の棧敷【国重有民】、中山の舞台【国重有民】、

中山千枚田【未指定文景】、しし垣（橘、長崎、吉田等）【町有民等】

オリーブ

オリーブ【未指定無民】、オリーブと瀬戸内海の風景【未指定文景】、

オリーブ公園【未指定名勝地】、「日本オリーブ発祥の地」碑【未指定有形（歴史資料）】、

オリーブ関係民具（オリーブ公園、農業試験所等）【未指定有民】、

オリーブ原木【未指定植物】、森口屋絵画等の風景画【未指定有形（絵画）】、

②島の魅力の再発見と発信

小豆島八十八か所霊場の巡礼文化【未指定無民】、神懸山（寒霞渓）【国名勝】、

小豆島名所図会版下【未指定有形（絵画）】、

寒霞渓内石碑群（「神懸山名称弁」、「長西君義拳碑」、「仰景の碑」ほか）【未指定有形（歴史資料）】、

絢海橋【未指定有形（建造物）】、「錦溪集」「神懸山志」「寒霞渓みちしるべ」「小豆島小唄」等の詩文集・

観光関係資料【未指定有形（歴史資料）】、『小豆郡誌』及び各村史調書【未指定有形（歴史資料）】

③文学作品の島

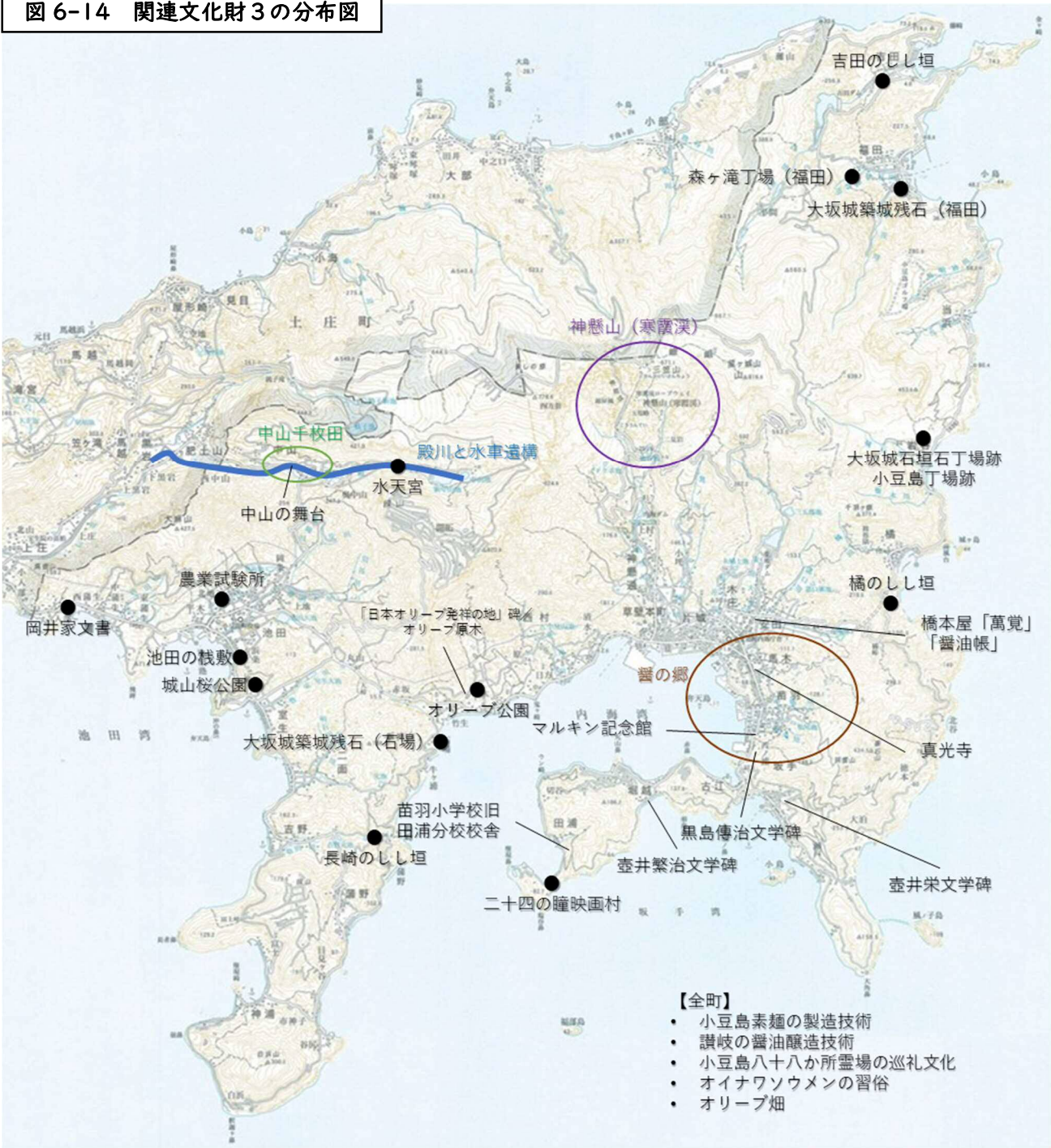
壺井栄文学碑【未指定有形（歴史資料）】、壺井繁治文学碑【未指定有形（歴史資料）】、

黒島傳治文学碑【未指定有形（歴史資料）】、苗羽小学校旧田浦分校校舎【町有形（建造物）】、

壺井栄文学館【未指定有形（建造物）】、二十四の瞳映画村【未指定有形（建造物）】、

城山桜公園【城山：包蔵地】、

図 6-14 関連文化財 3 の分布図



【関連文化財群 3 に関する現状と課題】

- ・ 醤油醸造等に関連する登録有形文化財群について、登録時の当主と世代交代が進んでいることから、十分に制度や本質的な価値の理解が進んでいない等、醤油醸造の町並みを形成している「醬の郷」をはじめ、関連文化財 3 を象徴している文化財群の保存・活用が危ぶまれる。
- ・ 伝統的な産業について、本質的な価値や周辺環境を把握した上での活用ができておらず、文化財的な視点での製品の魅力増進や将来への技術継承を検討する必要がある。
- ・ 名勝神懸山（寒霞渓）の環境面のみならず、発展を支えてきた人的、文化的、観光的な側面について、十分に把握ができていないため、本質的な価値を含めた周辺環境について把握する必要がある。

【関連文化財群 3 に関する方針】

- ・ 関連文化財群 3 を表現している「醬の郷」の近代醤油醸造の町並み等を保存・活用するため、伝統産業や名勝等の「地域の宝物」及び周辺環境の本質的な価値や周辺環境を適切に把握し、「地域の宝物」に基づいた地場産品の魅力向上、技術継承、景観の保全、環境整備を促進する。
- ・ 寒霞溪（国名勝）について、文化財の保存・活用の推進のため、本質的な価値を含めた周辺環境について把握し、計画策定を検討する。

【関連文化財群 3 に関する措置】

番号	関連文化財の措置 (措置表の番号)	事業概要	計画期間			取組主体			
			前	中	後	行政	住民	所有者	専門家
3-1	「地域の宝物」調査の促進 (2)	各種の産業のもつ伝統的技術等について文化財調査を行い、新たな価値づけを行う。	●	●	●	◎ 生	○		○
3-2	本質的価値の把握と景観の保全、環境整備 (3, 4, 5, 7, 8, 19)	「醬の郷」の守るべき本質的な価値の把握と、それを踏まえた景観の保全、観光のための環境整備を検討する。		●	●	◎ 生	○	○	◎
3-3	地場産品の魅力向上 (24)	守るべき本質的な価値を把握し、産品の魅力向上と技術継承を図る。	●	●	●	◎ 商・生		◎	◎

※ () 内の数字は、第 5 章に掲げた措置のうち、関連する措置の番号を示したものである。

島内の各村には、現在もさまざまな神仏が祀られるほか、特徴的な祭礼や行事が行われている。小豆島では、瀬戸内海を通じて大量の人や物、情報が行き交い、地域ごとに特色ある祭礼や信仰が発生し根付いている。これらは、くらしの中の感謝や祈りを表すものとして、島の生活と密接に関わりながら発展した。本町には、これらの信仰や祭礼が現在も息づき、くらしと祈りが強く結びついた日本の原風景が継承されている。

①山岳霊場と遍路

小豆島の険しい山岳地帯や水源地では、山伏ら修験者によって行場が形成され、一帯が山岳信仰の霊地とされた。中世以前の動向は未詳であるが、神仏習合の過程で行場である洞窟内等に本堂が置かれて寺院化したとされる。近世には村落の神社が寺院や庵坊とともに小豆島八十八か所霊場に組み込まれ、自然信仰と仏教が習合した霊地として信仰された。現在においても、病氣平癒や後生を願う数多くの遍路が訪れる。



図 6-15 西の滝

②水や火の信仰

（水への信仰）

小豆島や瀬戸内海沿岸地域では、降水量が少なく、大きな河川もないため、干ばつが頻発し、水の確保は重要な課題の一つであった。島民は、水源地（湧き水）を霊地として信仰し、雨を願った。西の滝（42 番札所・池田地区）に伝わる弘法大師の龍退治の伝承や、中山千枚田を潤す湯船山（44 番札所・中山地区）の湧き水と佐々木信胤の伝承、夢のお告げにより自然石に大師像を刻むことで水が湧いたという御水大師（西村地区）といったように、湧き水に関する伝承は、弘法大師や島の歴史と組み合わせられて町内の各地に残る。

水量が豊富で、水車で素麺用の小麦挽きが行われた殿川では、水車連中によって水天宮が置かれ、水天講が組織された。水天宮では、安政 5 年（1858）に中山村年寄の八木与一兵衛が施主となって「毘盧遮那大龍神」と刻まれた巨石が祭神とされており、現在においても素麺業者により信仰される。

また、寛永 15 年（1638）紀年銘のある弘法大師への雨乞い祈祷のために建立されたとされるお水大師供養塔（町有民・安田地区）や、文政 6 年（1823）に雨乞芝居をした落書がある中山の舞台（国重有民・中山地区）などは、雨を求めた人々の願いを伝えるほか、近世以降のため池築造にあたって作られた猪谷池の猪谷音頭（神懸通地区の盆踊り）も伝承されている。近現代にはダムが建設されることで、水不足はなくなったが、現在においても水への信仰の跡は色濃く残る。

（火への信仰）

小正月行事で、旧内海町域で広く行われるとんどは、松や竹を芯として、子どもたちが地域を回って集めた正月飾り等を円錐状に高く組み上げて大火を焚く。古来子どもたちが主体的に行う行事であり、現在においてもその形式を守っている地域もある。その火で焼いた餅を食べると1年中の病を除くという言い伝えもある。中山地区で半夏生に行われる虫送りは、火手とよばれる松明を振りながら棚田の中道を歩いて虫を送るもので、豊作を祈念するものである。松明の点火は、棚田の頂点にある湯船山で住職の読経・護摩炊きの上行われる。



図 6-16 とんど

③豊作の感謝 ～農村歌舞伎と太鼓台奉納～

秋の豊作を感謝する祭礼として、各八幡神社の例大祭や中山春日神社の農村歌舞伎奉納等がある。

各八幡神社の例大祭では、各地区が持つ巨大な太鼓台を持ち寄り、氏子らが昇って奉納する。八幡神社ごとに特徴があり、奉納では、太鼓台を横に返したり、斜めにしたまま回ったり止まる等、技能的な奉納が見られる。太鼓台は、さまざまな説話を元にした見事な彫刻や金繍の水引

幕等が付属しており、美術工芸品としての価値も高い。また、付属芸能として、しし舞やネリ（長刀踊り）（葦田八幡神社）、幟さし（町無民、内海八幡神社 馬木地区・橘地区）、オシコミ（町無民、神浦地区）やオオネリ（池田地区）（町無民、亀山八幡宮）が奉納され、各八幡神社の祭礼を特色づける。

これらの祭礼は、各神社の馬場と呼ばれる広場で行われ、数多くの氏子や観衆が集まる。亀山八幡宮では石積みで構成される栈敷席があり、祭礼の日には小屋が組まれて多くの人が集まる。馬場にはかつて農村舞台があり、さまざまな祭礼や行事に親しまれ、地域の「お祭り広場」として機能した。

④人々への祈りと伝説

小豆島では、餓鬼供養である「川めし（餓鬼飯）」（町無民）や「ショウロダナ」、「オйнаワソウメン」と呼ばれる特徴的な盆行事や、盆おどりである安田おどり（県無民）等の民俗芸能が行われ、先祖や無縁仏への供養が行われている。また、先人に対しての信仰も厚く、江戸時代に越訴事件で打首となった平井兵左衛門や、南北朝時代に小豆島を本拠として活躍した佐々木信胤、治承寿永の乱の平家落人等の歴史的事象に関連した人物、小笠原備中守、田中河内介、生田旬月等の近海で遭難・漂着した人々への追悼が行われている。特に、平井兵左衛門は「義民」として追善供養が行われ、佐々木信胤（お妻の局、竹成御前ほか）は、霊神として神社に祀られるほか、当時の戦乱の犠牲者の供養塔（城崩れ）や、落ち武者の隠遁伝承が伝えられる。彼らはともに、江戸末期以降、農村歌舞伎や安田おどりの演目の題材としても採用され、島民の人気を博した。

また、小豆島への行幸伝承のある応神天皇への信仰は篤く、中世の八幡神社へと繋がる「生田の森」（池田地区）や「馬目木台」（馬木地区）、行宮の屋根材を刈った「葺田」（福田地区）の他、岩に鍵をかけて上ったという「鍵掛山」（神懸山（寒霞溪）、水を取った井戸（観音堂石井）や腰掛石等各地に伝承地がある。応神天皇が上陸したという「水木（御著き）」や、荷物を積んだ船が着いた「鬼が崎（御荷が崎）」、船に乗ってお立ちになられた「橘（お立ち浜）」等、地名としても伝承されている。



図 6-17 応神天皇旧跡とされる
「馬目木台」（宮山山頂）

⑤失われた祈り

小豆島には、近世初頭に代官小西行長によるキリスト教の布教活動が行われ、約 1,400 人のキリシタンが誕生した歴史がある。彼らは、15m を超える巨大な十字架の設置や、旧来の神仏の破壊等の活動を行っていたが、天正 15 年（1585）の伴天連追放令以降、徳川幕府のキリシタン禁制等によって信仰を禁止され、キリシタンとその子孫は厳しい監視と弾圧を受けた。潜伏キリシタンは、18 世紀中頃までは信仰を続けていたとされており、現在にはその名残とされる遺物が伝承される。

【構成する「地域の宝物」】

①山岳霊場と遍路

山岳霊場寺院（洞雲山、碁石山、隼山、清瀧山、石門洞、佛ヶ滝、仏谷山、西の滝、湯船山）【未指定有形（建造物）】、宝篋印塔【国重美】、梵鐘【国重文】、木造伝池田八幡本地仏坐像【国重文】

②水や火の信仰

西の滝の湧水【未指定名勝地】、湯船の名水【未指定名勝地】、御水の大師【未指定名勝地】、水天宮【未指定有形（建造物）】、お水大師供養塔【町有民】、中山の舞台【国重有民】、猪谷池【未指定名勝地】、猪谷音頭【未指定無民】、とんど【未指定無民】、虫送り【未指定無民】

③豊作の感謝

葺田八幡神社及び例大祭【未指定無民】、内海八幡神社及び例大祭【未指定無民】、亀山八幡宮及び例大祭【未指定無民】、太鼓台と奉納技術【未指定（有無）民】、葺田八幡神社のしし舞ネリ【未指定無民】、馬木・橘地区の幟さし【町無民】、池田の棧敷【国重有民】、植松の馬場及び舞台【未指定有民】

④人への祈りと伝説

川めし【町無民】、ショウロダナ【未指定無民】、オйнаワソウメン【未無民】、安田おどり【県無民】、平井兵左衛門終焉の地【町史跡】、平称霊神【無指定有形（建造物）】、佐々木信胤廟【無指定有形（建造物）】、お妻の局神社【無指定有形（建造物）】、竹成神社【無指定有形（建造物）】、城崩れ【未指定有民】、白粉石の多重塔【町指定有形（工芸品）】、小豆島農村歌舞伎【県無民】、伝隠れキリシタン遺物【未指定有民】

図6-18 関連文化財4の分布図



【関連文化財群 4 に関する現状と課題】

- ・ 祭礼や太鼓台の道具類、寺社、潜伏キリシタン等、信仰や祭礼に関する「地域の宝物」についての全体的な把握や価値づけができていない。また、神社や石造物について、旧内海町域では多く把握できているが、旧池田町域では十分に把握できていない地域差の課題がある。
- ・ 地域の祭礼・行事では、担い手が不足しており、確実な継承を行うことができない恐れがある。

【関連文化財群 4 に関する方針】

- ・ 地域間の課題を埋めるため、信仰や祭礼に関する「地域の宝物」についての、文化財調査を行う。
- ・ 担い手不足の解消のため、祭礼・行事のもつ魅力の発信や普及啓発を行うとともに、技術継承や後

継者育成の取組を支援する。

【関連文化財群 4 に関する措置】

番号	関連文化財の措置 (措置表の番号)	事業概要	計画期間			取組主体			
			前	中	後	行政	住民	所有者	専門家
4-1	「地域の宝物」調査の促進(2)	祭礼、寺社、石造物、潜伏キリシタン等の分野において、文化財調査を行う。	●	●	●	◎ 生	○	○	◎
4-2	祭礼の理解促進と魅力の啓発(13)	寺社や祭礼のもつ魅力や重要さを、担い手へ普及啓発する。	●	●	●	◎ 生			
4-3	無形民俗文化財の後継者育成(30)	無形民俗文化財を支える人材や技術の継承を支援するため、講習会や財政支援を検討する。	●	●	●	◎ 生		◎	◎

※ () 内の数字は、第5章に掲げた措置のうち、関連する措置の番号を示したものである。

第2節 文化財保存活用区域設定と保存・活用の措置

(1) 文化財保存活用区域の考え方

文化財保存活用区域（以下、「保存活用区域」という。）とは、「文化財が特定の地域に集中している場合に、その周辺環境を含め当該文化財(群)を核として文化的な空間を創出するための計画区域」である。本計画においては、まず現時点で「地域の宝物」が集中している地域であり、小豆島町のもつ歴史文化の特徴を色濃く伝えている地区を選定し、区域設定を行う。

なお、本町においては、各公民館区単位で独特の歴史文化と「地域の宝物」が点在しており、各々の課題に応じて適切に保存活用を検討する必要がある。しかしながら、「地域の宝物」の総合把握や価値づけが不十分であることから、現段階での設定は困難である。将来的には全地区を対象として、保存活用区域の設定を検討しているため、次回以降の改正にあたって、適宜設定を行っていきたい。

(2) 小豆島町の文化財保存活用区域

本町では、歴史文化の特徴を「特徴A 大地と生きるまち ～火山と瀬戸内海の景観と恵み～」 「特徴B 交流するまち ～東西交流の海の中継地～」 「特徴C 聖なるまち ～多様な信仰と祭礼～」とした。

これらの特徴は町内に広く広がっているが、特に色濃く伝える区域が、「A 中山千枚田及びその周辺区域」「B 馬木地区・苗羽地区を中核とした醤油の香り漂う醬の郷地域」である。これらの地域は、本町の地質、歴史文化、産業を象徴的に表現しており、小豆島観光のスポットとしても知られる地域である。

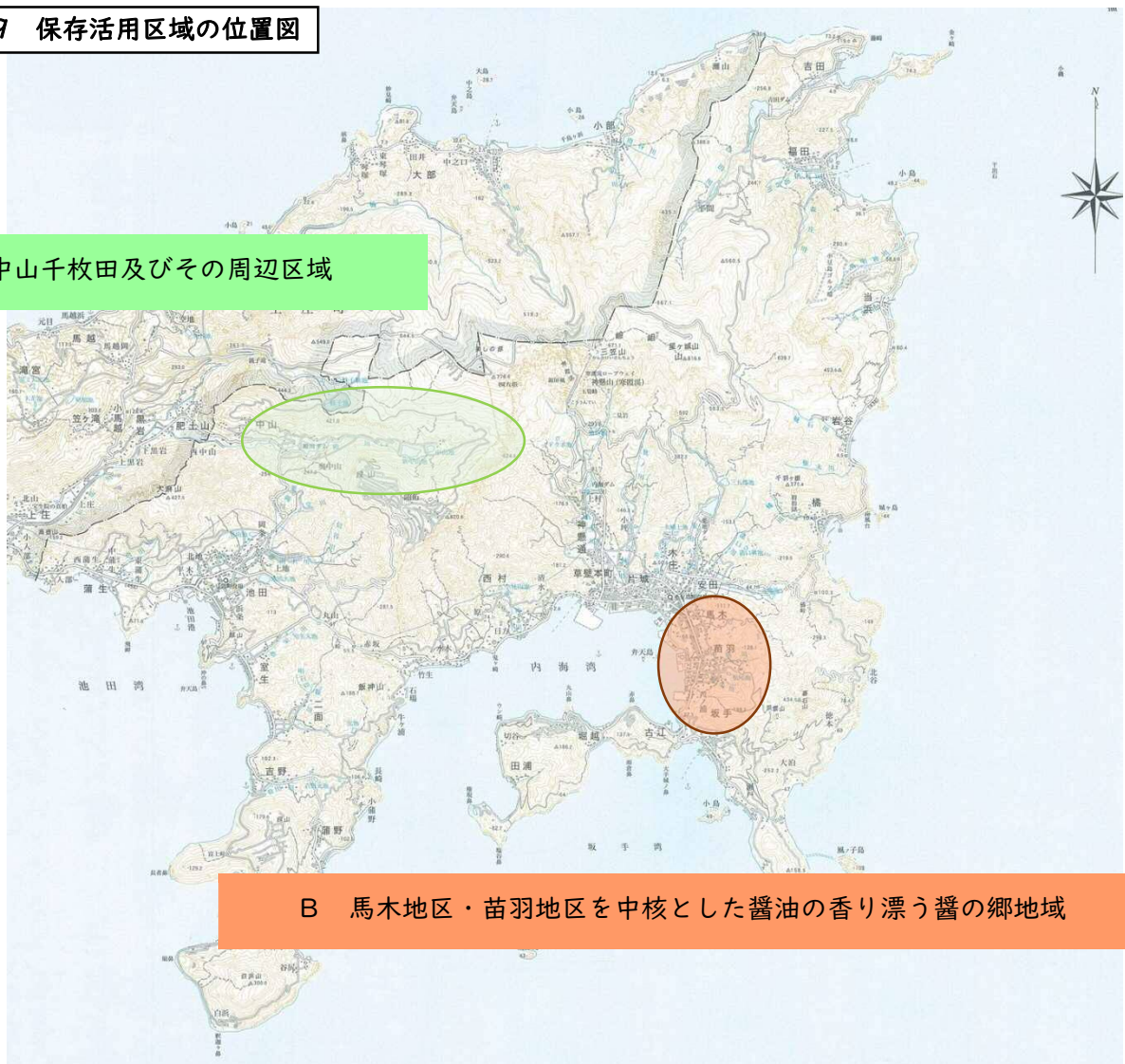
区域の設定にあたり以下の視点で、端的な特徴をもつ地域を選定した。

1. 地質の特徴を生かし、独特な土地利用、産業、景観が形成されている。【特徴Aとの関連】
2. 交流の歴史を活かした特徴を持っている。【特徴Bとの関連】
3. 他地域に見られない特色のある伝統芸能等を有する。【特徴Cとの関連】
4. 「地域の宝物」が集中している。

	A 中山千枚田及びその周辺区域	B 馬木地区・苗羽地区を中核とした醤油の香り漂う醬の郷地域
特徴Aとの 関連	地すべり地形とシルト質の土壌を活かした棚田が形成されており、耕作（生業）と景観で構成された特徴的な文化的景観が形成されている。	花崗岩を活かした塩浜から発展した伝統的な醤油醸造や醸造蔵等が伝承され、醤油の醸造香が漂う特徴的な町並みが形成されている。
特徴Bとの 関連	北条時頼の廻国伝承や佐々木信胤の伝承等、瀬戸内海の交流に関わる歴史文化を有するほか、近代以降の陸上交通の発展に関する歴史を持つ。	赤穂の塩浜師の移住による地域が形成されるほか、醤油や佃煮等の地場産品の回漕等の瀬戸内海の交流により発展し、近代小豆島の発展の象徴となった。
特徴Cとの 関連	棚田の中心の春日神社にある農村歌舞伎舞台（中山の舞台）で行われる小豆島農村歌舞伎や棚田で行われる虫送り等、特徴的な伝統芸能を有している。	苗羽おどり、馬木おどり等の盆踊りや、ヤッシッシ（馬木）、幟さし（馬木）等の特徴的な伝統芸能を有する。

図6-19 保存活用区域の位置図

A 中山千枚田及びその周辺区域



B 馬木地区・苗羽地区を中核とした醤油の香り漂う醬の郷地域

文化財保存活用区域A 中山千枚田及びその周辺区域

①区域の概要

中山地区は、小豆島中央部にある中山間地域で、斜面に築かれた中山千枚田とそれを取り囲むように形成された民家と山地、水源地である湯船の湧水、谷底に流れる殿川で形成される農村地帯である。

棚田の中には、地域の氏神である荒神社と春日神社があり、これらを中心に田植えの終わる半夏生の頃に豊作を願って田の虫を追い払う「虫送り」や、収穫後の秋に豊作を感謝して奉納する「小豆島農村歌舞伎」（県無民）等の伝統行事や民俗芸能が行われ、殿川の上流には豊富な水を祈る水天神が置かれ、素麺業者による水天講等の生業に関連する祭礼が行われており、自然への信仰と棚田等の生業の景観が織り成す日本農村の原風景が残るとされる。

【地質と石積文化】

棚田は、大規模地すべり跡の緩斜面地形を利用し、背後の湯船山を構成する讃岐岩質安山岩を活用し、安山岩の風化した崩積土と積み上げた岩塊で形成される。この崩積土は、シルト質で保水性がよく、水田に適した土で、良質な棚田米が収穫される。これらを構成する石は、地域の住民の手によって積まれることで、棚田が維持され、春日神社にある中山の舞台（国重有民）や栈敷席などの特徴的な文化財も形作られた。かつては、舞台や浄土寺の茅葺の屋根材も、地区内で生産し葺かれた。

【湯船山と殿川の水利】

中山地区は、島内でも水に恵まれた地域である。

棚田の最高部にある湯船山蓮華寺では、名水百選「湯船の湧水」が湧き、棚田や地域の生活用水を賄っており、古来霊地として、中世には山伏修験、近世には浄土寺奥の院として信仰された。

棚田の最下部を流れる殿川では、かつては豊富な水量を活かした水車による製粉業が盛んに行われた。殿川上流には、中山村年寄の八木与一兵衛によって水天宮が置かれ、製粉業者らの信仰を集めた。



図 6-20 中山千枚田



図 6-21 中山農村歌舞伎



図 6-22 湯船の湧水と熊野権現社

【交流と交通の歴史】

中山地区には、さまざまな交流の歴史がある。主には、鎌倉幕府五代執権の北条時頼の廻国伝承に関連した年寄八木家の祖「亀女」（念々仏）や、湯船山の佐々木信胤（熊野神社勧進とお妻の局の別荘）等の伝承的なものも多くあり、関連する文化財が伝えられる。

近世以降には、上方地域から伝えられた小豆島農村歌舞伎が始まり、近代以降には伊勢参りに出かけた村民による衣裳や根本、道具類、絵馬等が奉納されるとともに、島内各所や周辺地域から振付師や役者が訪れて、地芝居による交流が行われた。

生業の面では、小麦粉製粉業による他村交流があった。島内でも豊富な水量を誇った殿川では、水車を使った小麦粉の製粉が行われ、近代以降大きく発展する池田村等の素麺産業を支えた。しかしながら、池田村への交通は、「おんびき越え」（蛙が這うように上るといふ意）と称されるほど険しく難航した。大正5年（1916）には高坂隧道が開通し、交通課題は緩和された。隧道には、盾形迫石や異なる書体の扁額等の装飾、関係者銘板の設置等、小規模な隧道の割に、建造物としての記念性が強調される造りとなっており、道路整備を求めた地域住民の思いが偲ばれる。



図 6-23 花崗岩で作られた高坂隧道（内部）

② 区域の考え方

- ・ 中山千枚田の文化的景観及びその周辺環境が包括的に存在する中山地区全域：中山千枚田を中心とした生業、湧水や河川の水利用、農村歌舞伎等の信仰祭礼等が凝縮された文化的景観

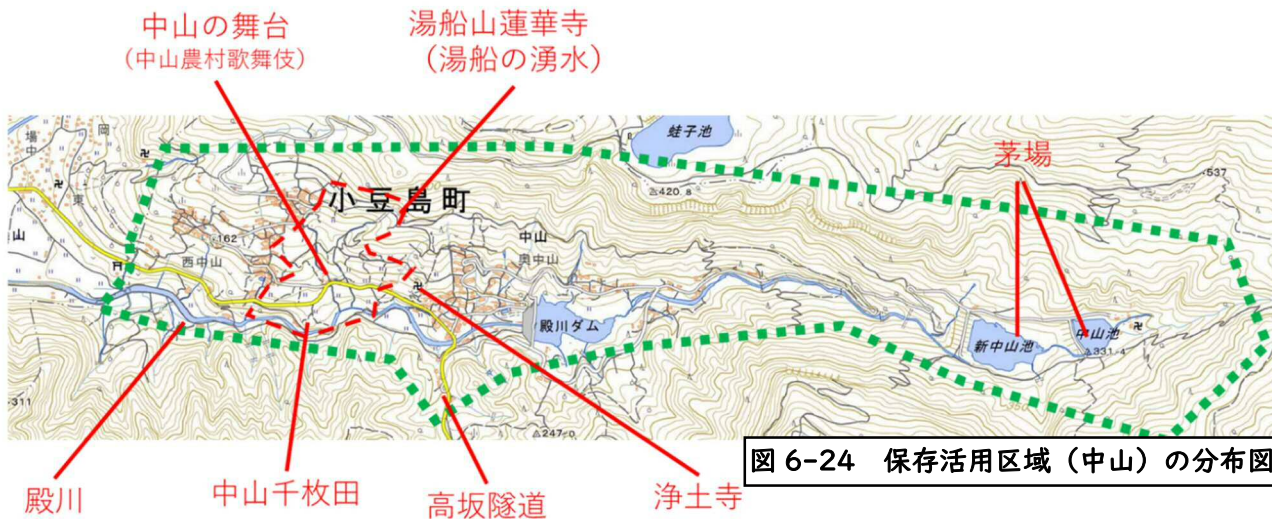


図 6-24 保存活用区域（中山）の分布図

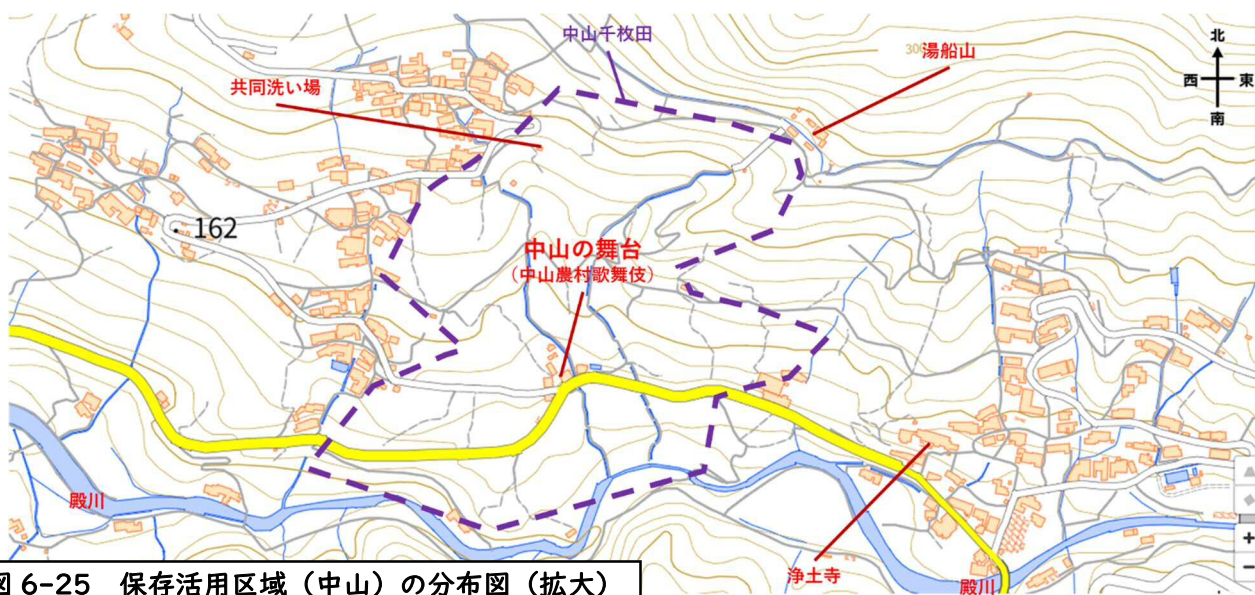


図 6-25 保存活用区域（中山）の分布図（拡大）

③区域内の核となる「地域の宝物」

	区分	名称	地区	指定
1	文化的景観	中山千枚田	中山	未指定
2	天然記念物	湯船山の樹林	中山	町指定
3	遺跡・建造物	湯船山蓮華寺及び熊野権現	中山	未指定
4	天然記念物	湯船の湧水	中山	未指定
5	歴史資料	湯船山縁起	中山	未指定
6	有形民俗	中山の舞台	中山	国指定
7	無形民俗	小豆島農村歌舞伎（中山）	中山	県指定
8	有形	浄土寺	中山	未指定
9	無形民俗	虫送り	中山	未指定
10	有形民俗	中山地区太鼓台	中山	未指定
11	建造物	荒神社・共同洗い場	中山	未指定
12	伝承	隠れキリシタンの伝承	中山	未指定
13	河川	殿川	中山	未指定
14	有形民俗	水車跡	中山	未指定
15	生業	茅場	中山	未指定

④保存活用区域 A に関する現状と課題

- ・ 区域を代表する農村歌舞伎については、文化財調査が行われているが、周辺を支える棚田等の文化的景観、トンネルや寺院等の建造物、潜伏キリシタン関連とされる石造物等については、十分に文化財調査ができていない。
- ・ 地域の魅力発信や「小豆島町中山棚田協議会」等による棚田保全等の取組により、2021年版「世界の持続可能な観光地 TOP100 選」に選定される等一定の成果を上げており、近年観光客等が増加しているが、観光客による棚田侵入による畦破損等の問題があり、観光のためのルール整備が必要である。
- ・ 小豆島農村歌舞伎については、記録作成を行って価値の整理を行ったが、その他の分野（景観、棚

田、寺社、自然環境、石造物、土木工作物、生業、潜伏キリシタン等）についての調査ができておらず、文化的景観を保護していくための地域の本質的な価値づけができていない。

- ・ 棚田の耕作者の高齢化や産業構造の変化によって耕作放棄地の増加や担い手が不足している。合わせて地域が伝承してきた虫送りや農村歌舞伎等の後継者の育成が課題であり、地域を構成している生業と民俗芸能、文化的景観の保存継承が困難となる恐れがある。

【方針】

大テーマ

棚田を中核にした中山地区の魅力を継承するため、棚田とその周辺環境の保存・活用を進める。

- ・ 地区内の「地域の宝物」の重点調査を進め、「地域の宝物」の価値づけを行い、区域内の価値づけを行うとともに、文化財保護法等の法令に基づく景観保護のあり方を検討する。
- ・ 生業の場である棚田と観光地である棚田を両立させるとともに、観光客の動きをコントロールするため、写真スポットやコース、観光ゾーン分け、見学にあたってのルールを整備する。
- ・ 棚田や歌舞伎舞台、自然環境等を活用したユニークベニユーを検討し、新たな視点による地域の魅力増進を検討する。
- ・ 地元や棚田協議会と連携し、棚田や伝統行事の後継者育成を行い、持続可能な地域文化の推進を行う。

【保存活用区域内での措置】

番号	関連文化財の措置 (措置表の番号)	事業概要	計画期間			取組主体			
			前	中	後	行政	住民	所有者	専門家
中-1	棚田保全の推進 (8・14・25)	棚田の景観継承、後継者育成、情報発信を通して、棚田の保全を推進する。	●	●	●	◎農	○	◎	○
中-2	「地域の宝物」の調査と保存(2・8)	地区内の「地域の宝物」の価値を調査し、文化的景観等の保存に向けた検討を行う。		●	●	◎生	○	○	○
中-3	民俗芸能、伝統行事の普及(30)	小豆島農村歌舞伎(中山の舞台)や虫送り等の無形の「地域の宝物」の保存と活用を推進する。	●	●	●	○生		◎	○
中-4	観光のための環境整備、ルール整備(19)	中山地区がもつ魅力を発信するとともに、棚田の見学者のためのルール作りを行う。	●	●	●	◎商	◎	◎	◎
中-5	ユニークベニユーの促進(18)	棚田や中山の舞台を活用したユニークベニユーを促進し、魅力向上を図る。	●	●	●	◎商・生	○	◎	

※ () 内の数字は、第5章に掲げた措置のうち、関連する措置の番号を示したものである。

①区域の概要

江戸時代に発生した小豆島の醤油醸造業は、近代以降島内のいたるところで勃興した。現在においても、古い歴史をもつ老舗の事業者が島内に点在しているが、馬木地区及び苗羽地区は、島内でも醤油醸造業の集中する地域で、近世近代の歴史を持つ醤油醸造蔵や財を成した邸宅が立ち並び、町を歩けば醤油の香りに包まれる。

江戸中期頃の塩田の衰退と同時に勃興した醤油醸造業は、塩と廻船業を背景に発達し、文化年間（1804-18）には販路を大坂へと拡大するほど産業化し、近代にかけて急速に成長した。明治10年（1877）には島内で400軒を超える事業者が乱立し、日露戦争後の最盛期には130軒、その後戦争や小規模事業者の合併統合や組合の設立等再編を繰り返した。戦後には、醤油を活かした佃煮加工業が始まり、現代に伝わる。各地区では、これらの産業に裏付けされた歴史文化が継承される。

【馬木地区】

馬木地区は、東端にある今坂池から内海湾に注ぐ馬木川に沿う形で古い町並みが形成されている。西側には宮山があり、郷社である内海八幡神社が鎮座する。宮山西側には、昭和51年災害等の土砂で形成された埋立地に新興の住宅街が形成されている。

かつて宮山との間には砂州があり、塩田が形成されていた。中世（15世紀末）にはまとまった塩田があり、天正年間（1573-91）には赤穂（播磨国）から多くの塩浜師が移住して入浜式塩田が広がり生産量が増大した。塩浜師は浄土真宗を信仰していたことから、天正3年（1575）には御堂が建てられ、正保2年（1645）には加賀国から住職を招へいし、真光寺が建立された。現在においても、地域の真宗門徒の信仰を集めている。17世紀末から18世紀末にかけて最盛期を迎えた小豆島の製塩は、瀬戸内海沿岸地域の十州塩田の発達により次第に衰退を始める。江戸後期には、過剰生産のため有利な事業ではなくなり、畑地に転用された。広い塩田があった内浜地区も、嘉永6年（1853）には甘藷等の畑地等に転用され、明治時代には水田となった。

江戸中期以降、島内では塩を活かした醤油産業が栄えたが、特に馬木地区では醤油醸造業者が集中しており、醤油蔵や財を成した邸宅が立ち並ぶ。これらの連続した建造物群や寺社、庭園や練堀（ネルベ）等の工作物等により独特の景観が形成されている。集落の間に小規模な諸味蔵や作業場等の醤油醸造施設や、邸宅や庭園（金両藤井家、塩田本家、坂下邸等（ともに国登録有形））、佃煮工場などが立ち並び、建物の間には、コスモスやオリーブの畑が広がっており、かつては、集落の頂点にある今坂池から水を引いた水田があった。今坂池からの眺望には、塩田から醤油や水田、戦後には佃煮やオリーブ、観光等への産業の変遷とともに、古来それを見つめ続けている内海八幡神社と真光寺があり、地域の移り変わりを象徴する。



図 6-26 今坂池からの眺望

地域内の寺社としては、真宗寺院の真光寺や地域の郷社であり古来諸国の廻船から信仰された内海八幡神社、醸造神として信仰を集める松尾神社、地域の金羅明神社があり、これらの神社ではヤッシッシや馬木おどり等の特徴的な伝統芸能が奉納される。観音堂石井（町史跡）は、中世以来の古井戸で内海八幡神社の祭典の際に、お供水として用いられたとされる。そのほか、宮山山頂には内海八幡神社の元宮があり、「オバベ講」が行われているほか、応神天皇の腰掛石と伝わる石もあり、さまざまな要素にあふれている。

【苗羽地区】

苗羽地区は、馬木地区の南側にあって、碁石山から流れる中筋川と向条川、松尾池から流れる川向川に沿って集落が形成されている。銅鏡の出土した古墳（亀尾山古墳）等から、古くから人の居住が確認できる。

苗羽地区も同様に、醤油醸造業者が集中しており、海浜部は、マルキン醤油等の大規模の醤油醸造施設があり、マルキン醤油（発酵蔵（国登録有形・苗羽地区））や宝食品等の工場や販売所が立ち並んでおり、山側に集落が広がっている。裏の大嶽は標高が高くて平地が少なく、谷筋の斜面に沿って集落が形成されている。

海側には日本の醤油産業の近代化の象徴であるコンクリート槽やタンク等の醤油工場や港湾設備とともに、古来の伝統的な蔵をも併せ持つマルキン醤油を中心とした大規模な醸造の景観とともに、山側には醤油醸造で財を成した富豪の邸宅や寺院、小規模な佃煮加工場で町並みが構成されている。小豆島の醤油産業の中心であり、醤油組合や発酵食品組合の本拠があるほか、木下忠次郎等の先人の顕彰碑も多い。

集落の中には常光寺があり、その境内に地域の氏神である荒神神社が鎮座しており、秋の例祭では、神輿を中心に苗羽地区の太鼓台や稚児等の祭礼行事の役割を持つ人々と渡御行列を組んで地域内を練り歩く。苗羽おどりやスコスコドッコイ等の民俗芸能や伝統行事も継承されている。また、壺井栄らの近代文学者の顕彰碑である「黒島伝治文学碑」がマルキン醤油を望む丘に設置されている。

②区域の考え方

- ・ 伝統的な醤油醸造の行われている地域のうち、小規模蔵元が集中して、独特の景観を保つ馬木地区と、日本を代表する蔵元マルキン醤油による大規模かつ伝統的な醸造蔵による景観



図 6-27 ヤッシッシ

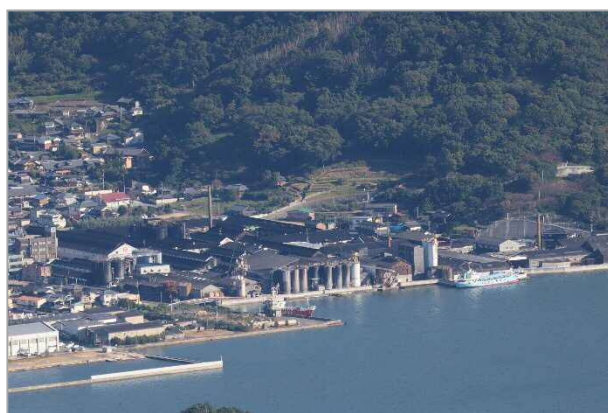


図 6-28 マルキン醤油の大規模工場



図 6-29 左海醤油の景観



図 6-30 保存活用区域（醬の郷）の分布図【馬木地区】



図 6-31 保存活用区域（醬の郷）の分布図【苗羽地区】

③区域内の核となる「地域の宝物」

	区分	名称	地区	指定
1	景観	「醬の郷」の景観	両地区	
2	無形民俗	讃岐の醤油醸造技術	両地区	国登録
3	建造物	ヤマサン醤油関係の登録有形文化財群	馬木	国登録
4	建造物	正金醤油・山吉醤油関係の登録有形文化財群	馬木	国登録
5	建造物	金両醤油関係の登録有形文化財群	馬木	国登録
6	建造物	坂下家関係の登録有形文化財群	馬木	国登録
7	建造物	金大醤油関係の登録有形文化財群	馬木	国登録
8	建造物	キッコ石石井家関係の登録有形文化財群	馬木	国登録
9	建造物	やます坂下家関係の登録有形文化財群	馬木	国登録
10	建造物	山吉山本家関係の登録有形文化財群	馬木	国登録
11	建造物	坂下勤家関係の登録有形文化財群	馬木	国登録
12	石造物	顕巧の碑	馬木	
13	建造物	醤油会館（旧醤油組合事務所）	馬木	
14	歴史資料等	内海八幡神社（社叢、歴史資料等）	馬木	県指定
15	史跡	観音堂石井	馬木	町指定
16	歴史資料等	内海八幡神社元宮（オバベ講）	馬木	
17	建造物	マルキン醤油記念館	苗羽	国登録
18	建造物	マルキン醤油関係の登録有形文化財群	苗羽	国登録
19	石造物	マルキン行啓碑	苗羽	
20	建造物	宝食品・左海醤油関係の登録有形文化財群	苗羽	国登録
21	建造物	島宿真理関係の登録有形文化財群	苗羽	国登録
22	建造物	島一照下家関係の登録有形文化財群	苗羽	国登録
23	遺跡	亀尾山古墳（銅鏡）	苗羽	銅鏡は町指定
24	建造物	常光寺	苗羽	
25	建造物	西照庵	苗羽	
26	建造物	庚申堂	苗羽	
27	建造物	苗羽荒神社	苗羽	
28	石造物	黒島伝治文学碑	苗羽	

④保存活用区域 B に関する現状と課題

- ・ 「醬の郷」関連施策によって、馬木地区及び苗羽地区の景観の魅力を活かした観光地化が進んでおり景観への理解は進んでいるが、本質的に守るべきものや文化財建造物間にある景観の価値づけが十分に把握できていない。
- ・ 住民生活や産業の妨げとならないように、景観や醤油蔵等の「地域の宝物」を親しむためのスポットやルールを整備が十分にできていない。
- ・ 区域内に伝承されるヤッシッシや馬木おどり、苗羽おどり等の多様な民俗芸能の保存継承の取組が十分に支援できていない。

【方針】

大テーマ

地域の魅力向上のため、「醬の郷」の町並みの保全を検討し、地場産品の付加価値を向上させる。

- ・ 地元や商工会等の関係団体と連携し、町並み保全や民俗芸能の後継者育成を検討し、持続可能な地域文化の推進を行う。

- ・ 重点的な文化財調査を進め、「地域の宝物」の価値づけを行い、地場産品の魅力向上を促進するとともに文化財保護法等の法令に基づく景観保護のあり方を検討する。
- ・ 写真スポットや見学にあたってのルールや、醤油蔵や景観等を活用したユニークベニユーを検討し、新たな視点による地域の魅力増進を検討する。
- ・ 区域内に伝承されるヤッシッシ等の保存継承の取組を支援する。

【保存活用区域内での措置】

番号	関連文化財の措置 (措置表の番号)	事業概要	計画期間			取組主体			
			前	中	後	行政	住民	所有者	専門家
醬-1	景観保全の推進 (1、8)	景観の価値を調査し、保存に向けた取組を検討する。		●	●	◎ 生・商	○	◎	○
醬-2	地域の魅力を守る取組 み(19)	魅力を発信するとともに、公開促進や見学者のためのルール作りを行う。	●	●	●	◎ 生・商	◎	◎	◎
醬-3	ユニークベニユーの 促進(18)	醤油蔵や景観を生かしたユニークベニユーを促進し、魅力向上を図る。	●	●	●	◎ 企	○	◎	
醬-4	後継者育成(30)	ヤッシッシや苗羽おどり、馬木おどりなどの特色ある地域の行事などの後継者育成を推進する。	●	●	●	◎ 生		◎	◎
醬-5	地場産品の魅力向上 (24)	地場産品や郷土食の魅力向上や普及啓発を推進する。	●	●	●	◎ 生・商	○	◎	

※ () 内の数字は、第5章に掲げた措置のうち、関連する措置の番号を示したものである。